

平成29年度第2回湯梨浜町地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時 平成30年3月7日（水）13：30～14：30

場 所 湯梨浜町役場 第3会議室

出席者 徳田会長、塩副会長、長委員、石本委員、福井委員、
三原委員、清水委員、濱口委員、中本委員

事務局 山田課長、洞ヶ瀬所長、宮本補佐、森主幹、植田副主幹、
佐々木、田中、米原、高田、戸崎

1 開 会

2 あいさつ

会 長 時間も限られておりますので、予定通り終われるようご協力お願いします。

3 協議事項

（1）平成29年度事業経過について

（資料に基づき事務局から説明）

会 長 今の説明に対してご意見・ご質問はあるか

（なし）

（2）平成30年度地域包括支援センター事業実施方針について

（資料に基づき事務局から説明）

委 員 認知症地域支援推進員は包括職員が担っているのか。配置は何名あるのか。

事務局 包括支援センター職員を推進員として1名配置し、認知症についての普及啓発やケースの対応等を行っている。認知症地域支援推進員1人で対応するのではなく、推進員が中心となり、保健師や社会福祉士、主任ケアマネといった包括の専門職と連携を図りながら対応している。

委 員 1名で充分なのか。あまり聞かないので、住民に対しての周知も不十分なのではないか。

事務局 三原委員にチーム医を受けて頂いており、医療の専門的な立場からご意見を伺っている。包括の専門職と町内の内科医師がチームとなり、またその中で推進員が中心となって進めている。

委 員 家族介護用品購入費助成の対象者に対しての周知はどのようにしているのか。

事務局 基本的には要介護4、5になった際に担当のケアマネジャーさんから紹介していただくようお願いしている。要介護4、5は施設入所している方が多いため、退所される際に案内し、該当される場合に申請するよう助言をお願いしている。また、対象者の要件に住民税非課税世帯等があるため、申請を受けてからでないと課税情報の確認が取れないことから、対象者に対して個別に案内することができない。包括で開催しているケアマネネットワーク会議等を通してケアマ

ネジャーに周知し、該当しそうな場合に申請して頂くよう声かけをお願いしている。

委 員 生活支援体制整備事業について第1層、第2層のあたりがよくわからない。
事務局 新規事業については次の項目で説明させていただく。

(3) 平成30年度における新たな取り組み等について
(資料に基づき事務局から説明)

委 員 生活支援体制整備事業では第1層では何が課題となっているのか。2層を作っ
てどうフォローしていくのかよくわからない。

事務局 地域の中での困りごとや助けられる人材の発掘、把握を進めているところ。現
在では一部の地域からの吸い上げしかできていないため、今後も範囲を広げて
行っていく。

委 員 具体的にどんな課題があるのかモデルとなるものはないのか。

事務局 生活支援体制整備事業の協議体においては具体的な課題をあげて協議をしてい
るが、本日の会ではそこまでの資料はお出ししていない。

委 員 課題や解決策について具体的にイメージできない。町内には羽合、東郷、泊の
3地区があり、それぞれ特徴に応じた対応があるので2層の話が出てきている
のだと思うが。

事務局 現時点では困りごと等が把握できている地域が一部であるため、全体となると、
もう少し地域の把握に努める必要がある。

委 員 具体的に困りごとについてどの程度のものをいっているのか。困りごとによっ
てはお金もかかってくる。たくさんある困りごとについて画一的にやっていく
のか、漠然と仕組みとして解決できる仕組みをつくっていくのか。

事務局 例えば地域の課題として泊地区には買い物できる店がないことが挙げられる。
逆に羽合地区には店は多いが、少し離れた宇野地区は泊に近い課題があると思
えられる。地区の中でその問題が解決できればそれが一番良い。地区ごとに特
性があるため、拾い上げるのに1層ではエリアが広すぎてしまうため、難しい。
そこを細分化して旧町村単位で2層を作り、その中で愛の輪協力員さんや民生
委員等普段活動しておられる方から抽出していただく。そこで地域で解決で
きることについてはしてもらい、できないことについては1層にあげていただき、
町全体の施策として検討していく。不便さを少しでも取り除くことがねらいで
ある。また、この事業も始まったばかりのものであり、どこの町村も試行錯誤
で進んでいる。

委 員 やっていることを見ると社協のイメージが強い。愛の輪協力員や福祉推進委員、
高齢者クラブ等の情報をもっている

委 員 確かに社協としては目新しいことではない。もともと旧町村単位でやってきて

いる。先ほどの後者の仕組みとして、課題があれば町全体の仕組みとして考えていけないといけない。

委員 75地区すべての特性や課題を把握するのは難しいのではないかと。
事務局 社協で行っている小地域ネットワークの研修会には民生委員さんや愛の輪協力員さん等も参加されるため、そういった場も活用して意見交換をし、把握に努めている。また、今年度は生活支援コーディネーターがサロンの実態把握を行い、実際にサロンにも出かけていき、困りごと把握や意識啓発のための助け合い体験ゲームを通してニーズを発掘していた。

委員 筋力向上トレーニング事業の効果はどうだったのか。
事務局 筋トレは週2回、週1回、卒業者用と3種類のコースがあり、その実施前後で体力測定を行い、PTが評価をしている。総合的には向上している評価が多い。ただ、期間としては3か月であり、その後のフォロー体制が不十分であることが課題。

委員 体力測定の結果は数値化していないか。
事務局 体力測定の結果を体力年齢に換算し、評価している。向上が49%、維持が12%と約6割の方に効果が見られている。

委員 数値をきちっと出して勧誘していく方がよいのではないかと。
事務局 第1回目の会議の際には数値も出させていただいた。

(4) 認知症初期集中支援チームの活動状況について

(資料に基づき事務局から説明)

委員 他の自治体の状況はどうか。
事務局 チームの立ち上げは中部地区において、今年度は北栄町と湯梨浜町がスタートしている。中部地区のそれ以外の市町は平成30年度より開始予定。本町と北栄町は似たような状況であると聞いている。包括支援センターの通常の相談対応の中で医療やサービスに結びつくことが多く、チームで対応するケースがどんどん上がっている訳ではない。

委員 チームに上がっているケースは氷山の一角だと思う。掘り起せていない部分も大きい。家族が熱心であったり、なんとかしないといけないという思いをもっていると医療や福祉サービスにはつながりやすい。しかし、家族がそっけなかったり、その気がないといくら熱心に関わっても難しい。

事務局 チームとして対応するには事前に家族の同意が必要になっているため、ケースとしてあがってきていない現状はある。

委員 支援を必要とする人はつながるが、つながらない人はその気がない。それを無理につなげようとするが軋轢が生まれる。そういう意味ではこの事業が上手くいくのか心配である。

委 員 介入の方法もいろいろと工夫が必要。

事務局 いろんな手段を協議しながら、また地域の人も巻き込みながらやっていきたい。
相談窓口につながらない方の支援に難しさを感じる。

（３）その他

事務局 運営協議会の委員の任期が平成３０年３月３１日までとなっている。要綱をみていただいてもわかるとおり、個別にお願いする場合や団体の代表にお願いする場合とあるが、団体の方には推薦依頼、個人の方には個別でお願いさせていただく。できれば、引き続き受けていただきたいと思っている。

４ 閉会